

P5. 島根県松江市東部，和久羅山周辺に認められる断層

The faults recognized around Mt. Wakurayama in the eastern part of
Matsue City, Shimane Prefecture, Japan

泉 憲志郎・向吉 秀樹（島根大学）

1. はじめに

島根県松江市東部に位置する和久羅山と嵩山の山あいにおいて、東北東走向に伸びる和久羅山断層の存在が報告されている（向吉ほか，2024）．和久羅山断層は，中期更新世ないしそれ以降に活動開始したと推定され，やや北落ち正断層成分をもつ右横ずれセンスを示す．平均変位速度は約 0.25mm/yr，活動度は B 級（100～10cm／1000yr）と推定される．本断層の正確な断層長は，未だ明らかとなっていない．本研究では，本断層西端の西方において，地形判読と地質調査を行った．調査の結果，本断層に関するリニアメントと露頭が認められ，本断層とは異なる断層の存在が示唆されたので報告する．

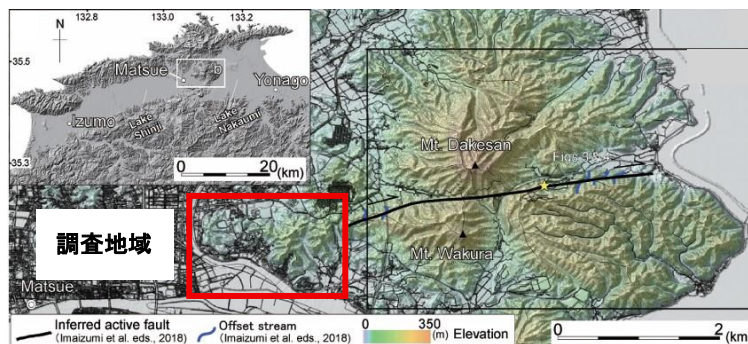


Fig. 1 向吉ほか，2024 に加筆

2. 地形判読

右横ずれ変位を示す谷の右屈曲地形が4カ所，リニアメントが2本認められる（Fig. 2）．

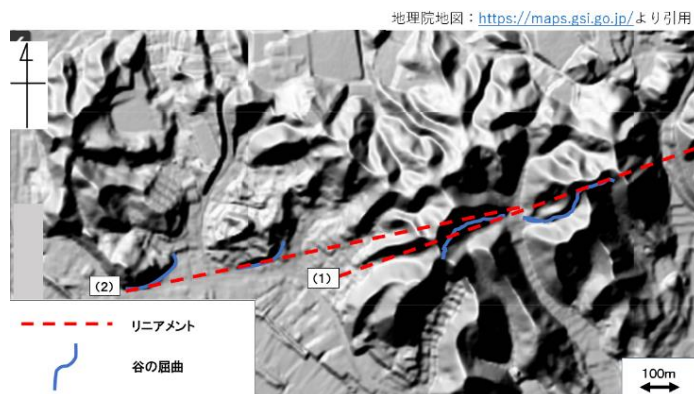


Fig. 2

3. 地質概要

砂岩，礫岩，暗灰色デイサイト，灰色デイサイト，赤褐色デイサイトが分布する．

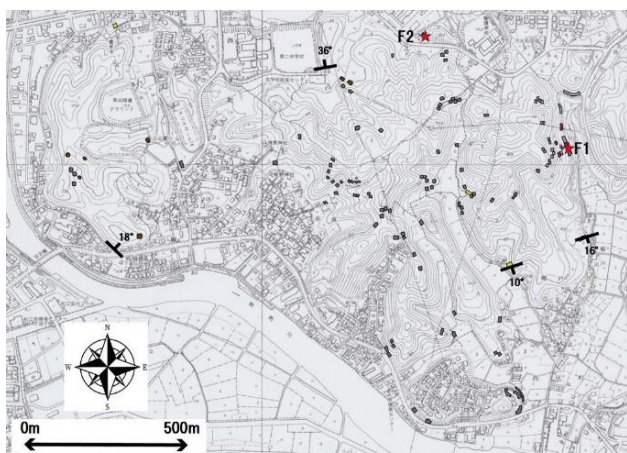


Fig. 3 : 露頭位置

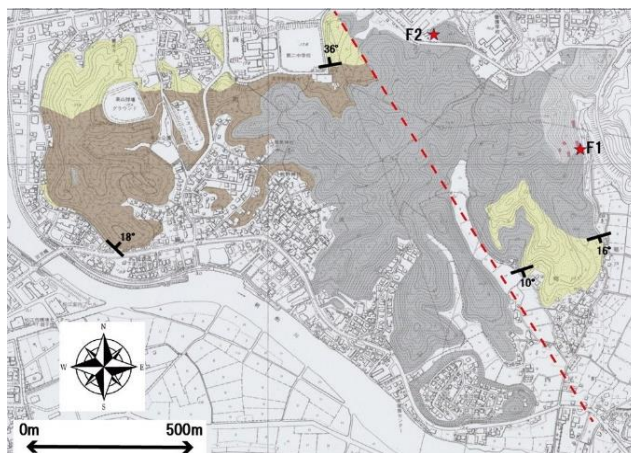
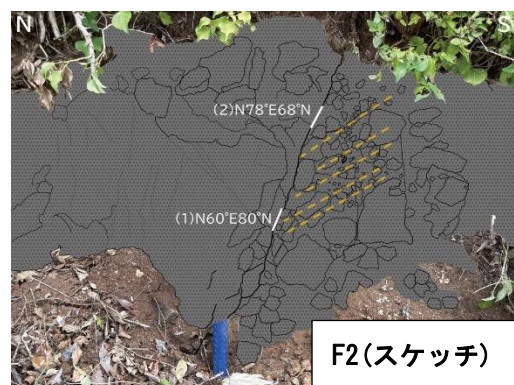


Fig. 4 : 地質図

4. 和久羅山断層の可能性のある露頭

調査地域北東部の地点 F1、北部の地点 F2 において、和久羅山断層の可能性のある露頭が認められた (Fig. 4)。F1 は剪断面を境に暗灰色デイサイトと赤褐色デイサイトに分かれており、F2 は暗灰色デイサイトからなる。F1・F2 とともに、剪断面は北東走向、高角北傾斜を示す。F1 はリニアメント (1) 上に位置し (Fig. 2)、剪断面の走向はリニアメント (1) と調和的な値を示す。F1・F2 とともに角礫化しており、北落ちを示す礫の定向配列が認められる。F1 の剪断面近傍には、北落ちを示す引きずり構造が認められる。F1・F2 でみられる特徴は、和久羅山断層の断層露頭の特徴とほぼ一致する。



5. 和久羅山断層とは異なる断層の存在

Fig. 4 で示すように、砂岩・礫岩の境界と南傾斜の砂岩の境界が途切れており、その要因として、断層の存在が示唆される。断層は北北西走向に伸び (Fig. 4: 赤色点線)、変位センスは左横ずれセンスであると推定される。走向・変位センスは和久羅山断層とは異なる。現在、北北西走向に伸びる左横ずれ断層の断層露頭は確認できていないため、引き続き調査を行いたい。

6. 考察・まとめ

和久羅山断層の可能性のある露頭が地点 F1・F2 で認められ、和久羅山断層は 2 地点まで延びている可能性がある。地点 F1 はリニアメント (1) 上に位置し、F1 における剪断面の走向が調和的であることから、リニアメント (1) は和久羅山断層の断層地形であると考えられる。地質調査から、和久羅山断層とは異なる、北北西走向に伸びる左横ずれ断層の存在が示唆された。山陰地方では、雨滝-釜戸断層帯など、北西～北北西走向の左横ずれセンスを示す活断層が報告されている。本調査地域の左横ずれ断層は、これらと同様の断層を見ている可能性がある。

7. 参考文献

- ・向吉秀樹 伊藤久敏 太田尚吾 Lakshmanan Sreehari 大平寛人, 2024, 島根県松江市東部、和久羅山山麓に認められる推定活断層沿いの断層露頭, 活断層研究, 60 号, 1～10
- ・岡田篤正, 2002, 山陰地方の活断層の諸特徴, 活断層研究, 22 (松田時彦先生古稀記念号), 17～32